



国際ロータリー第2530地区 2014-15年度

# 福島ロータリークラブ會報

第15号

例会日/2014年10月23日(木) 開会点鐘/12:30  
会場/ホテル[辰巳屋]8F

和の心で  
日々燭を掲げよう

Rotary



本日の  
プログラム

## 新会員スピーチ

総合学習塾アビリティ 代表取締役 佐藤 朋幸 会員

<http://www.f-rotary.com/>

【事務所】福島市栄町5-1 ホテル辰巳屋 7F 【例会日】木曜日12:30

【TEL】024-524-1010 【FAX】024-524-1011 【mail】f-rotary@guitar.ocn.ne.jp info@f-rotary.com

### 正しい手締めの作法

二〇一四―一五年度会長 丹治 正博

今日は暦の上では「霜降」秋が終わりを受け、霜が降りる季節になりました。これから忘年会の季節に向かっ何とお酒を頂く機会が多いと思います。お酒の席の手締めに欠かせませんが、今日は手締めに於いて少々お話を致したいと思います。

手締めの「意味」ですが、手締めには、座をまとめるという意味と、いろいろの行事がトラブルもなく無事終了したことの締め括りとして行われるのが一般的です。また、手締めの前の掛け声ですが、「いよーつ」という掛け声は「祝おう」が転じたものとされており、手締めには欠かせません。また、声を掛けることで、全員のタイミングを取る役割も果たしています。

次に、江戸前の代表的な締め方をおさらいすることに致しましょう。「一本締め」というと、「いよーつ、ばん」と一回手を打って締める光景がよく見られますけれども、これは正しくは一丁締めといわれています。江戸前一本締めは、三・三・三・一と手を打つのが正しいやり方です。三回の拍手を三回繰り返すと九回。「九」という字に一つ点を打つと「丸」という字になります。最後の一回の拍手は、この「丸」に点を打って丸くおさめましょう、という意味があるそうです。どういふ場面で行われるかと言いますと、神社のお祭りや神輿担ぎが行われるときに、神輿の宮出しと宮入りの際に一本締めを行います。そのほか会合や宴会の締めでも、一本締めはよく行われます。くれぐれも、一丁締めと間違えないように、皆さんは正しい一本締めのやり方をご承知置き頂きたいと思えます。ちなみに一丁締めは、三本締めや一本締めるほど大袈裟でない会合のときや、居酒屋などで周囲の客に迷惑を掛けないときなどに行われているようです。現在、一丁締めが全国に流行しているのは、プロ野球のキャンプの打ち上げでやっているからという説もあります。

のが三本締めです。三本締めの音頭の取り方については、江戸時代の鳶の親方のセリフがよく引用されますが、「本日の当事者に一本、本日ご来場のお客様に一本、それからこのお店に一本」と講釈を述べて「それでは二同様、お手を拝借」ということになるかと、参加者全員が納得してくれそうです。

そのほか、「一つ目上がり」は、最初は人差し指だけ、次は人差し指と中指というように、指を一つずつ増やしていく締め方です。手の打ち方は、一本締めと同じです。これを五回繰り返すこととなります。少しずつ音が大きくなっていくところが面白いところです。また、「吉原締め」は、一本締めの後に、加えて七回手を打ちます。変わったところで、大阪では「大阪締め」というものがあります。「打ちましょ、パンパン。も一ツせ、パンパン。いおうて三度。パンパン。」というものです。いまでは商売人の中で残っている程度で、大阪の舞台関係でも近年、江戸の打ち方をやっていたが、落語の桂米朝師匠などが「それではあかん」ということで、大阪締めに復活させたといわれています。おまけに、「指締め」というものもあります。歌舞伎の演目の中で、ひと仕事(悪事)が成功したときに、片手の「親指と人差し指」を打ち合わせて、「よよよい、よよよい、よよよい」と小声でこつそりと一本締める場面があります。この一本締め、こつそりと静かに締めたときに、どうぞお試してください。これならば一流レストランでやっても問題ないでしょう。正式な名称はないようなので、「指締め」とでも呼びましょう。これらは、普段はなかなかお目にかからない、珍しい締め方です。日本の文化が豊かな証拠ですね。

では、手締めの音頭は誰が取るのが正しいのでしょうか。手締めの音頭は、その集まりの主催者が取ります。つまり采配を振って滞りなく行事を終了させたリーダーが、「本日も無事おさまりました」と、協力者へ感謝とお礼の気持ちを込めて行うのが本来の姿です。ですから「最後の締めに、来賓の〇〇様にお願いたします」というのは、手締めの意味からはずれてしまうわけです。

### 手締めは何のために？

商談の成立のときに手を打ったのが始まりとされています。現在でも、交渉事するとき「この辺で手を打ちましょう」などと言うことがあります。「手を打つ」とは「妥結」「決着」「成立」「成就」「和解」の証明とされてきました。こうした儀式を「手打ち式」といいました。したがって、歌舞伎などの最初の稽古で役者が顔を揃える「顔寄せ」も、劇場のオーナーと役者・スタッフとの上演契約の儀式なのです。

### 手締めはいつ、どこで？

東京証券取引所の年末の「大納会」、年始の「大発会」では、三本締めを行っていますし、大相撲では、千秋楽の表彰式の後に手打ち式が行われます。次の場所から序の口に登場する若手力士が土俵の上で輪になって、呼び出しの音頭で三本締めをします。また、各地の神社の境内で開かれる西の市では、あちこちから威勢の良い手締めが聞えてきます。縁起物の熊手の売買が成立すると店員と客が手締めをするのです。その他、市場の初荷、初取引、歌舞伎や落語界の襲名披露などの場で手締めが行われます。威勢よく手を打って「快く次へ進もう」というのが手締めの心。この清らかな響き、手締めの後の清々しい気持ち、これが日本人には堪らないのでしょう。

### 手締めの起源は？

神社における「拍手」という説もありますが、拍手の起源には幾つかの説があります。天照大神から出雲の国を譲るように言われた大国主命は、そのことを長男の事大主神に伝えると、拍手を打って承知したと古事記「国譲りの神話」のなかに記してあります。また、魏志倭人伝には、倭人(日本人)は身分の高い人に対して手を打ち、跪いて拝礼をしていたと記されており、当時は神に対してだけでなく、人に対しても拍手を打っていたことが窺われます。また古代人は相手に対して、手に武器を持っていないことを示すために拍手を打って、敬意をあらわしたともいわれています。

## 新会員スピーチ

株式会社アビリティ 代表取締役 佐藤 朋幸 会員



この度、先々月8月に、この歴史と伝統ある福島ロータリークラブに入会させて頂きました、株式会社アビリティ、佐藤朋幸です。本日は、新会員スピーチという、ありがたくも諸先輩方を前に甚だ緊張する機会を頂戴いたしました、誠にありがとうございます。

まずは、あらためましてご挨拶を兼ねまして、自己紹介から始めさせて頂きたく思います。私は、昭和42年5月福島市生まれの47歳で、現在、家族は妻と3人の子どもの5人で、森合に住んでおります。小学校時代は福島リトルリーグの第1期生となり、中学校までは、野球少年でした。この度、福島ロータリークラブへ入会のご推薦を下さった菅晴晴隆さんは、この福島リトルリーグ時代の先輩であり、小学校時代から続く地元でのご縁となります。そのご縁を、今回、またこのような福島を代表する名士の方々が集う福島ロータリークラブというご縁に繋げて頂きまして、大きな時間の流れで人生を感じるとともに、大変ありがたいなあ、感謝しきれないほどです。

高校は、福島県立福島高校に進学し、中学までで自分の野球の能力に限界を感じていた私（この考え方が、そもそもなかったのです）は、「勉強の合間に、楽しめれば…」くらいの軽い気持ちで、部活としてテニスを始めました。この軽い決断が、結果、人生の方向性を大きく変えることになりました。その軽い気持ちで始めたテニスですが、個人スポーツであるテニスは、野球と違って個人の勝ち負けははっきり出てしまいます。そうやって、試合に出て勝ち負けがつくたび、次第にテニスにのめり込むようになり、やがては、勉強はどっかに行ってしまう、頭のことはテニスだけ、テニス漬けとなってしまいます。その甲斐もあってか、素人から始めたテニスですが、夢にも思えなかった全国インターハイ出場が、夢には思えるくらいにはなり、やがて3年生の頃には「みんなと、団体戦で、全国インターハイに出よう」というのが目標になりました。そうして臨んだ県のインターハイ予選ですが、当時県内連勝中でその年も優勝した原町高校に、準決勝で敗れ、高校テニスが終わりました。自分たちが思うに惜敗ただけに、「もっとできたはず…」という消化不良感が残ったまま、受験勉強へと入っていくこととなります。受験勉強というのは、当然ながら、目標を決めなければなりません。この目標となる大学なり学部・学科を決めるのに、テニスばかりやってきたため、悩んでしまいました。「大学って、当然ながら学問をやる場所だよな」と。そして、テニスばかりやってきた自分がやりたい学問って何だろうと考えたときに、浅はかすぎてお恥ずかしいレベルなのですが、「そうだ、俺の一番興味を持って、勉強したいのは、どうしたらテニスが強くなるかだ」、「しかも、高校の先生になれば、自分の果たせなかった全国インターハイ出場の夢を、毎年、生徒と熱くなって追える!」ということで、教育学部の体育科を目指すことに。

実は、大学進学を決める高校3年になるときに両親が離婚しまして、経済的な負担は母親にはお願いできないと、絶対、現役で、且つ国公立に合格しなければならず、しかし、すっかり勉強はそっちにやっちゃってしまっていたため、諸々の妥協の産物として選び、進学したのが、福島大学教育学部の特別教科保健体育でした。

「自分は、テニスが強くなる勉強をするために大学に入ったのだ。」と自分の大学生活は、高校時代に果たせなかった全国大会の舞台に立ちたいと、言うまでもなく更にテニスに没頭というも

のでした。しかし、当時の福島大学のテニス部は、全国はおろか、東北学生も勝ち抜く選手がいない状態で、どうやってどのくらいのレベルに達すれば、全日本学生選手権に出られる選手になれるのか、全く道筋のない状態でした。そうしたなか、やっていたことは、ひたすら熱心に授業も出ないで、朝から夜までコートに出て練習することでした。しかし、大学入学から3年生の冬になるまで、大きな問題を抱えて試合では全く言っていないほど勝てない挫折の連続でした。その問題とは、練習で身に付けた力が、大事な試合で発揮できない、というやっかいな心の問題、目に見えず正体の掴めないメンタルの問題でした。

が、運命とは面白いもので、妥協の産物で入学した、テニスも弱小の福島大学に、たまたまメンタルトレーニングの実践的な研究で著名な白石豊先生がいらっしゃったのです。その白石先生の研究室の門を叩き、それまでの自分は、まず試合に臨む考え方からしてできていなかったということがわかり、愕然としました。

白石先生の元で学んだ卒業論文は、「メンタルマネジメントの実践的研究 ～セルフイメージの拡大を中心として～」というテーマです。この、「セルフイメージ」とは、「自分はこれこれができる。」「自分は、これこれ、できない…」、「自分はこういう人間だ」という、人が心の深層で持っている自己像のことです。もっと平たく言えば、良くも悪くも「自分らしさ」ということとなります。そして、人の実行行動とそれに伴う成果は、この「セルフイメージ」の大きさに比例する、というのが、メンタルマネジメントの考え方です。つまり、勝者になりたければ、望むような勝者となり得る「セルフイメージ」を身に付けていなければならないという訳です。試合になると力を発揮できない当時の私は、このセルフイメージが、決定的にまずいま、努力し続けていたのです。だから、いくら練習しても、強くなれなかったのです。

白石先生に学び、私のテニスに劇的な変化が生まれ、神戸で開催された全日本学生テニス選手権に出場し、高校時代からの念願を果たすことが出来たのです。そしてこの体験が、色濃く今の仕事を通じて実現したいことに繋がっていくこととなります。

大学を選ぶ際に、もともと、わたしのやりたかったことは、「部活の先生」であって、教師・教員になりたいと夢を描いての教育学部でなかったため、就職を控えた大学4年をむかえたとき、たいへん悩んだというか困りました。教員になりたいと熱心に勉強している回りの友人との温度差を痛感し、まず教員になるのを躊躇い、就職活動をして一般企業への道を模索しました。私の就職活動の時代は、バブルの絶頂期、就職するまでは、学生様々で扱われますので、内定も簡単に大手企業から複数もらいました。にもかかわらず、当時の私は、またへんな理想論ばかり持っていました。「日本全国の業界・企業を研究し、その中から真剣に選び、考え、決めた就職先でもないのに、一生を左右する大きな決断を、こんなあっさり決めてしまっているのか」と。決断するのが、怖いということを経験しました。

結局、私は、内定をすべて辞退するという行動に出て、まだ自分はテニスをやりきっていないと、自分の可能性を追求したいという思いから、練習環境を得るためにテニスコーチをしながら、社会人のトーナメントに出る生活を始めました。

その後、紆余曲折ございましたが、今から14年前の平成12年、当時、プロの家庭教師として、県内を飛び回る生活をしていたところ、清明町にある実家のマンションの上の階に住むお母さんに、中3になる女の子仲良し3人組をまとめて見てもらえないかと声をかけてもらったのが、塾の始まりです。

5.5畳のマンション1室、看板も出さずに、おそらくは「日本一、狭い塾」と、日本一からのスタートだったと思います。その後、

ありがたいことに、生徒さん達が少しずつ増え、手狭になりつつあったところで、渡利のテナントに移転して、やっと本格的に塾らしいことが始まりました。社員を雇い入れるために、株式会社化し、事業としての塾経営という方向性に舵を切り出したのが、平成19年ですので、今から7年前となります。その後、平成21年には、幼児から小学生までのお子さんを対象とする初等部専門教室を新浜町にオープンし、震災後の平成25年の春には、仙台の文教地区である北仙台駅前に、同じく初等部専門教室を開校しました。更に、この春には、渡利から福島駅前に中学部・高校部の教室を移転・拡大して、現在では、3教場、幼児は4歳のお子さんから、上は高3の大学受験生まで、約450名のお子さんが、幼小中高一貫した教育カリキュラムにて学んでくれています。

このような塾の歩みですが、今でも、創業間もない頃の生徒が帰省して顔を出してくれ、「先生の塾も、大きくなりましたよね。」「先生も、頑張ってますね。」などと言ってくれたりします。それもそのはず、後ろを振り返らずに、ひたすら前を見て14年、塾の坪数で言えば、約50倍に広がっておりますから、ありがたいことだと振り返ることができます。

さて、昨今の、大学入試結果を見ますと、期待を込めて県内高校の共学化が図られたにも関わらず、年を経る毎に、福島の子たちは苦戦を強いられ、特に難関大と言われる、東大・京大を始めとする旧帝大、国公立大医学部を始め、早稲田・慶応等の難関私大受験においても、年々合格者数が先細っている傾向が止まりません。

福島の子たちと中央との学力差が広がることはあっても縮まることがないことは、深刻なことで捉えており、且つそのことが社会の問題として大きく叫ばれることがないことに、危機感を抱いております。

そうはいっても、私どもは塾ですので、当然ながらそういった現状を批評している立場ではありません。当塾では、福島の子たちの「やれば、できる」力を、証明していこうじゃないかと、しかし、そのためには、各年代ごとのやるべき学習を、適切な時期に行ってもらえるよう、初等部・中学部・高校部というカテゴリーで学習してもらっています。

その取り組みの手応えも少しずつですが感じられるようになってきており、例えば、現在、民間で全国的に行われる最大規模の「全国統一小学生テスト」において、各学年とも、県内トップ10のほとんどをうちの塾生が占めるというほどになってきています。この子達が、中学校・高校へとあがっていくころには、かつてない全国の大学への人材輩出実績という点で、本当に福島の時代を少なからず動かしていけるのではないかと、自信と手応えを感じながら、日々を子どもたちと熱く過ごしています。

また、中学部に在籍する子たちの合格実績も、塾生の約半分が福島高校、そして他の子たちもほとんどが、橘高校、東高校へ進学、となっています。高校部でも、内部からの持ち上がりかほとんどのため、各学年の人数は少ない中、2年連続、県立医大医学部合格者を出したり、昨年は、聖母高生がICU、橘高生が上智大に合格し、今年は東大にチャレンジする子が2名と実績が確実に上がりつつあります。

このようにして、塾ですので、一人一人の成績向上、進路実現のために、第一義的に力を尽くしています。しかしながら、私が塾を通して一番やりたいことは、私の高校時代から大学時代のテニスを通じて感じてきたことです。「自分は、正しい意識を持って取り組めば、可能性を發揮できる存在なのだ」、つまりは、「やれば、できる」という信念を、勉強を切り口として一人一人のお子さんに育てていきたいということです。「セルフイメージ」を、大きく描いてほしいということです。大学時代に白石先生から、まず教わったことは、『「どうせ～だから…」と言う言葉を使うな。』です。でも、つい子どもたちは、「どうせ…」と言ってしまい

がち、考えてしまいがちです。実は、私は、学校の成績をあげることに、順番を上げること、合格することは、そんなに難しいことではないと考えています。まず、何より大事なものは、「君は、できる。」とポンと背中をたたいてやることだと思います。逆に言えば、その子の持っている発想を大きく変えることなく、ただ勉強だけやっていても、なかなか伸びません。そうしていくうちに、「自分は、やってもなかなか成果にむすびつけることができない…」という悪いセルフイメージを強化することにも繋がってしまったりするから、厄介です。

だから、塾を通してやりたいのも、そういったことなのです。そのような思いを共有したスタッフ達といっしょになって、福島の子たちに、「やればできる」という思いを勉強を通して、勉強が出来るようになる過程を通して、信念として持ってもらい、その後の人生を羽ばたいて言ってくれたら、との思いを持ちながら、日々の学習指導という仕事に向かっています。

先ほどもお話ししましたが、塾を始めるきっかけとなった3人の女の子たち、その時のお母さんの一人が、「弟もいますので、今度、中学校になったからお願いしますね」といつてくれていて、入塾してきてくれたのが、矢萩君という男の子です。その矢萩君は、中学校の頃から、「世界を駆け巡る海洋学者になる」という夢を抱いていました。福島高校に進んだ矢萩君は、北海道大学を経て、現在、東大大学院博士課程で学び、地球海洋環境学分野にて深海生物の研究を行っています。修士時代には、世界から選抜された海洋研究者が深海6500に乗り込んでカリブ海深海を研究・探索するチームに、日本人学生として唯一人選ばれ、参加するという機会を得ました。そして、彼が書いた修士論文は、日本地球惑星連合大会にて、学生優秀賞に輝きました。博士課程を修了後は、さらにイギリスの大学の深海研究の世界的権威と言われる教授の下へ留学の準備を進めています。このように、私が白石先生から教わったことを彼に伝え、彼はその目標達成の技術を今でも実践しながら確実に中学校時代に描いた夢に向かって、ステップアップしていることを、節目節目で報告してくれます。

アビリティという塾にとって、まさに矢萩君のような、日本全国、そして世界へ羽ばたく意志を持った若者の成長に関われたら…それが、夢であり、目標であります。また、彼がイギリスに渡ったら、彼にチケットをとってもらい、ウィンブルドンを観戦して満喫するというのが、私の密かな楽しみであります。

こうやって、自己紹介を兼ねて、私の歩みをお話しさせて頂いて参りましたが、小学校時代のリトルリーグでの晴隆さんとのご縁、軽い気持ちで始めたテニスが大学の学部まで影響し、妥協の産物で進学した福島大学での白石先生との出逢い、そして、「日本一狭い塾」からスタートして、その間、青年会議所にも入会させて頂いたことがきっかけで、テナントのオーナーさんとなる知人や教室をデザインして下さる知人の業者さん、設備工事をして下さるこれまた知人の業者さん、看板を工事して下さるまたまた知人の業者さんなど出会い、お世話になりながら、何とか事業も拡大しつつあり、そしてこの度、福島ロータリークラブへの入会という機会を頂戴し、本日、こうして皆様の前でお話しさせて頂いていることは、自分を越えた、運命ともいべき大きな力が働いて導かれているのではないかと、そう考えずにはいられません。

先ほどお話ししましたように、私の両親は高校時代に離婚しまして、その後は母方の籍に入りましたので、私には、父親世代の大人の背中というものが、ございません。ロータリークラブへの入会のお話を頂戴したとき、福島を代表する各業界の先輩方に触れ、背中を見せて頂ける、これからの私の人生にとって掛け替えのない時間の一つとなっていくことと思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げますと、ご挨拶を込めまして、私のスピーチを終わりとさせて頂きます。本日は、ご静聴、誠にありがとうございました。

## 私のひとこと

今井理基夫 会員



一冊の本を紹介させていただきます。元々いたま家庭裁判所家事調停委員である宗像善樹氏の著書『咸臨丸の絆 軍艦奉行木村撰津守と福澤諭吉』（海文堂）です。ご承知のとおり、咸臨丸は、日米修好通商条約（一八五八年六月締結）の批准書交換のため、米国軍艦に乗り米国に赴く使節団を警護するために幕府が派遣した護衛艦です。

咸臨丸に軍艦奉行として乗船した木村撰津守（旗本）と木村に懇願し木村の従者として乗船を許された福澤諭吉が、困難を極めた往路の航海、サンフランシスコでの大歓迎と市内の視察、順調であった復路の航海等を通じて厚い信頼関係を築き、その固い絆に基づき、帰国後福澤を翻訳方として幕臣に推挙し、幕府崩壊後は維新政府の誘いを一切断り隠居した木村に対し、福澤が今ある自分は木村さまのお陰と信じ、終生物心両面の援助をして礼を尽くし、親交を続けたことについて、文献や資料に基づき、平易な文章で綴った歴史ドキュメントです。維新前後の歴史にご関心のある方にはお勧めの一冊と思われれます。

### 今月の「友」より

### 10月号の注目記事

■横組みP3 / RI指定記事/RI会長メッセージ

#### 「ポリオ撲滅活動に輝きを」

■横組みP7～14 /特集/職業奉仕月間

#### 「考えよう 語り合おう 実践しよう ～職業奉仕～」

P14…「農業を通じた私の人生」 鹿島西RC 樋山時美会員

■横組みP17～21 /特集/米山月間

#### 「これからの米山記念奨学事業」

■横組みP22～31 /RI指定記事/ THE ROTARIAN10月号

#### 「サンパウロ ア・ラ・カルト」

■横組みP35～37 /心は共に/東日本大震災

#### 「ロータリー希望の風奨学金」

■縦組みP4～8 /スピーチ

#### 「渋沢栄一から読み解く21世紀の経営者精神」

一橋大学大学院商学専攻科教授 田中一弘

■縦組みP13～17 /友愛の広場



### 例会次第

開会点鐘 丹治正博 会長

ロータリーソング「それこそロータリー」

ソングリーダー 茂田士郎 会員

「四つのテスト」唱和 緒方啓道 会員

お客さま並びに来訪ロータリアン紹介

●血圧測定

会長挨拶 丹治正博 会長

食事

幹事報告 坪井大雄 幹事

●福島東RC、10月31日(金)の例会は、18:30

より峰亀にて夜間例会となりますのでお知らせ致します。

各委員会報告

●プログラム・ニコニコBOX小委員会

プログラム担当 右近八郎 委員長

ニコニコBOX担当 岩田尚志 委員

●広報マルチメディア雑誌小委員会

佐藤武彦 委員長

◎本日のプログラム

開会点鐘 丹治正博 会長



### 例会プログラムのご案内

■ 11月4日(木) 18:30～「辰巳屋」

11月理事会(19:00より合同懇親会)

\* 18:00～指名委員会が開催されます

■ 11月6日(木) 12:30～「辰巳屋」

野崎 潔ガバナー公式訪問

・9:30 … 会長・幹事会

・10:30 … クラブ協議会

(各委員長、小委員長さんは義務出席になります)

・12:30 … 通常例会

\* 誕生祝い

■ 11月13日(木) 12:30～「辰巳屋」

渡辺健寿地区クラブ奉仕委員長スピーチ

\*「友」紹介 \*血圧測定 \*プログラム案内

■ 11月20日(木) 理事会承認休会(2回目)

■ 11月27日(木) 12:30～「辰巳屋」

・「ロータリー財団月間にちなんで」スピーチ

安藤健次郎R財団委員長

・新会員スピーチ

江刺家宏樹会員

### ニコニコBOX報告

(報告) 今井理基夫 委員

本日のニコニコBOX投入額 34件 ¥68,000 累計 ¥1,042,000

○相良元章 会員  
佐藤朋幸さんの新会員スピーチ楽しみにしております。

○その他、佐藤武彦/丹治正博/坪井大雄/志村光昭/森洋一/増子勉/松浦敬裕/岩田尚志/佐藤英典/金子與志人/田沼紀美子/古俣猛/藤井高志/緒方啓道/菅沼裕/海野卓哉/八巻恵一/茂田士郎/児玉健夫/岡田新也/氏川守義/浦部博/土屋敦雄/安藤健次郎/高橋聡/菅野晴隆/小林仁一/中島健至

○幡 研一 会員  
アビリティの佐藤さんのスピーチを楽しみに。我々年寄りのアビリティも引き出して下さい。

○紺野晴郎 会員  
新事務所所在地鎮祭を執り行いました。丹治宮司様の祝詞に感激し新たな意欲がわき起こりました。感謝申し上げます。本日の佐藤朋幸会員のスピーチを楽しみにしております。

○渡邊広重 会員  
最近時に新聞を見ていると、女性、雇用創出というキーワードが目立ってきました。福島県でも大きな動きが出てきました。しっかりと応援して参りたいと思います。

○佐藤朋幸 会員  
本日は、新会員スピーチの場を頂いております。よろしくお願いたします。

○江刺家宏樹 会員  
本日で入会から二ヶ月経ちました。少しずつですが、皆様の顔と名前が一致してきました。少しでも早く全員の方々と覚えたいと思います。佐藤会員のスピーチ楽しみにしております。

パンダハウス募金ご報告 (森川英治社会奉仕委員長)

10月23日

8,645円

累計 115,138円